

## 小学校算数 学習指導要領 一改訂の概要

### ○ 年間の授業時数

現行時数からの変更はない。(学校教育法施行規則)  
 第1学年 136時間/第2学年 175時間/第3学年 175時間  
 第4学年 175時間/第5学年 175時間/第6学年 175時間

### ○ 育成すべき資質・能力に基づく枠組みの採用

教科の「目標」は、前文と、資質・能力の三つの柱に対応した(1)(2)(3)とで構成されている。

- (1) 知識・技能
- (2) 思考力・判断力・表現力等
- (3) 学びに向かう力・人間性等

各学年の「目標」も、この三つの柱に対応するかたちで示されている。

各学年の「内容」についても、アは「知識・技能」、イは「思考力・判断力・表現力等」に対応するかたちで示されている。

### ○ 数学的な見方・考え方

教科の「目標」の前文で、「数学的な見方・考え方」を働かせた学習を行うこととされている。

なお、中教審の答申では、「数学的な見方・考え方」について、「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること」であると示されている。

### ○ 数学的活動

「算数的活動」の用語を改めて「数学的活動」として、「日常の事象」及び「算数の学習場面」から見いだした算数の問題を解決する活動、及び問題解決の過程や結果を表現し伝え合う活動等が位置付けられ、第1学年、第2・3学年、第4・5学年、第6学年のまとまりで類型が示されている。

### ○ 領域の構成

領域の構成は、以下のように変更されている。

現行	新
A 数と計算	A 数と計算
B 量と測定 ・量の単位, 測定 ・角, 図形の計量	B 図形
C 図形	C 測定(第1~3学年) C 変化と関係(第4~6学年)
D 数量関係 ・関数の考え ・式の表現と読み ・資料の整理と読み	D データの活用

### ○ 各学年の主な変更点

#### 【学年間で移行される内容(現行→新)】

- ・素数 … 第5学年→中学校第1学年
- ・分数×整数, 分数÷整数 … 第5学年→第6学年
- ・速さ … 第6学年→第5学年
- ・代表値 … 中学校第1学年→第6学年
- ・メートル法の単位の仕組み  
… 第6学年→第3~5学年に分散して移行
- ・(用語・記号)「平均値」, 「中央値」, 「最頻値」, 「階級」  
… 中学校第1学年→第6学年

#### 【第1学年】

- ・内容上の大きな変更はない。

#### 【第2学年】

- ・A(1)……簡単な分数として扱う範囲が、「1/2, 1/4 など」から「1/2, 1/3 など」に変更されている。

#### 【第3学年】

- ・C(1)……(内容の取扱い)「接頭語(キロ(k) やミリ(m))について触れるものとする」が追加されている。
- ・D(1)……(内容の取扱い)「複数の棒グラフや組み合わせたグラフ」などに関する項目が追加されている。

#### 【第4学年】

- ・A(4)……小数倍に関する内容が追加されている。
- ・C(2)……簡単な場合の割合に関する内容が追加されている。
- ・D(1)……(内容の取扱い)「複数系列のグラフや組み合わせたグラフ」に関する項目が追加されている。

#### 【第5学年】

- ・D(1)……統計的な問題解決の方法に関する内容が追加されている。
- ・D(1)……(内容の取扱い)「複数の帯グラフ」に関する項目が追加されている。

#### 【第6学年】

- ・C(1)……比例の関係をを用いた問題解決について、「問題解決の方法について知ること」が追加されている。
- ・D(1)……「統計的な問題解決の方法を知ること」が追加されている。
- ・用語・記号…「対称の軸」, 「対称の中心」, 「比の値」, 「ドットプロット」が追加されている。

### ○ プログラミング教育の取扱い

「指導計画の作成と内容の取扱い」には、プログラミング教育の取扱いに関して、「[第5学年]の「B 図形」の(1)における正多角形の作図を行う学習に関連して、正確な繰り返し作業を行う必要があり、更に一部を変えることでいろいろな正多角形を同様に考えることができる場面などで取り扱うこと」が示されている。